

この写真は、1月下旬の盛岡市内から望む冬の岩手山をとらえた一枚です。盛岡市内に住む友人から送られてきました。手前には北上川がゆったりと流れ、その向こうに堂々とした岩手山が雪をまとい、そびえています。澄み切った青空と、白く輝く山肌の対比が美しく、まさに冬の盛岡を象徴する風景といえるでしょう。

岩手山は「南部片富士」とも呼ばれ、盛岡の人々にとって特別な存在です。市街地のどこにいても、その姿が見えると心が落ち着き、季節の移ろいを感じさせてくれます。特に冬は積雪によって山の稜線がくっきりと浮かび上がり、力強さと静けさを同時にまといます。

北上川の流れは、盛岡の街の生活と歴史を支えてきました。川沿いの雪景色、橋や建物の並び、そして遠景の岩手山が一体となり、盛岡らしい落ち着いた都市の表情をつくり出しています。この「北上川越しの岩手山」は、盛岡を代表する風景として多くの人に親しまれています。冬の冷たい空気の中で見る岩手山は、ただ美しいだけでなく、街と自然が寄り添って生きていることを静かに語りかけてくるようです。

(2026 年 1 月下旬／岩手県盛岡市内)

